

# 綴方讀本

(全一冊)  
上編「綴方選集」  
長篇五十六  
鑑賞細評附  
下編「綴方と人間教育」——綴方の理論と指導諸要點の詳解。

## 「綴方讀本」序

鈴木三重吉

私は今から十八年前に「赤い鳥」を創刊して、童話や児童歌謡詞曲の根底的更生に發足した當初から、すでに綴方の根本の改革のためにも直面し來つたもので、以來引きつゞきたえずこつ／＼と誘導につとめてゐる。特にこの七八年前からは、毎號の入選作を細かく鑑賞的に解剖批判して、作品をいかに見るべきかの基本の指導態度の馴致に努力して來た。幸に私にも、比較的少數ながら、教育家諸氏の間に理解のふかい共鳴者があり、それらの人々の熱誠な實地指導のおかげで、私が選

出する作品の標準も次第に向上し、この數年以來は、多くの作は、ほとんど極點と言ひ得るところまで進んで來た。正に絶對的な一派の純藝術作として仰ぐに足りる、すばらしい成績である。それらの作の價としては、第一に、おの／＼の中に光つてゐる、児童独自の睿智と純情と、鮮鋭な感覺とに頭が下るのを通例とする外に、第二には、われ／＼人間の宿命を指示したり、人間生活の貴い意味を暗示したりするやうな、沈黙的批判を包んだ作や、けつきよく、人間そのものゝ斷面をさがして、人間性の券證として呈出してゐるときき深い作品にも當面して得て、つく／＼驚嘆することもしば／＼である。ありふれた作家たちの工作なぞの速く及ぶところではない

往年、「赤い鳥」の綴方が、まだ今日の發達の半ばにも至らないころ、現存の、文壇の名家某君が、そのときの入選綴方を見て、「今後は、作家も君のところに入選しなくては文壇へ出さないことにしたいね。」と冗談を言つたことがあつた。作家たちに、いはゆる表現のまづい徒輩が多いことの無用な痛罵よりもより多く、児童のすばらしい把握と感受とに驚いた賛辭であつたのはいふまでもない。私にはこゝにはじめて機會が來て、「赤い鳥」の入選作の優秀なものを一冊にまとめることが出來、これによつて、児童の、かくれたるかゞやきをひろく公表し得ることを喜ばずにはゐられない。

この集には、學校での引用とするにはあま

りに陰慘な、いろ／＼の作篇を除外したのといかにすぐれた作でも、方言の對話のひひ多くものは、やはり一般の學校での引例に向きである。二三篇のほかにこと／＼く省き去つたのもつて、如上の意味でのひどく深刻なものが數多くはいつてゐないのが残念である。しかし、そのほかにも、單に児童性と兒童の生活との反射といふ以上に、人間生活の、いろ／＼の縮圖として意味のふかいものも多くふくまれてゐる。

なほ、作篇は、最簡單な目安から、最近のものより逐次、入選の年月號順にならべておいた。年級順にまとめなかつたのは、かゝる優秀な作篇となると、或年級のものが必要しも同年級用の鑑賞にあてゝ恰好といふのみでなく、むしろ、より以上の年級にも適當する意味において、言はゞ多分の絶對性をもつてゐるがためである。

私はこれらの貴い作例を、愛賞用として多くの藝術愛好家にさしげるとともに、教育家と「兒童」又は「文化」の研究者と、特に小

學讀本の編纂家との參考に供したい。綴方のかくのごとき完成は、むろん、當面的に、わが小學教育上の寓訓的な發展としておたがひの少なからざる歡喜であるばかりでなく、いろ／＼實地について調査したら、或は世界中にも例のない、文化的成果として、日本独自の民族的な誇りであり得るのではないかと想像される。

それはとにかく、もと／＼私自身がいつも高踏的に黙々と歩いてゐる等の點から、學校における實際の教育家でも、「赤い鳥」を手になされたことのない多くの人々の中には、兒童の製作の可能さが、これほどまでに進んでゐることを知らない方が多いかと思はれる。本集の作品を、かゝる方々に見てもらふだけでも、たゞ、私側のみに至幸ではない筈である。

なほ多忙な私は、やつとこの機會に、私が多年來主張してゐる、綴方の根本理論と、實際製作の指導の主要點とを、はじめてまとめて附記し、なほ、在來の綴方の研究者たちの

所論の錯誤や、實際の教課における缺陷をも指摘し、また、最近となへ出された、綴方の新流派なるものについても批判を加へておいた。

綴方は、多くの平淺な人たちが考へるやうに、單なる文字上の表現を練習するための學課ではない。私は綴方を、人そのものを作りと／＼のへる、「人間教育」の一分課として取扱つてゐるのである。私は多くの方々に向つて、この意味での私の主張を検討されることを熱望して止まないものである。

最後に、私の論述には、内容にも機構にも他の人の所説や工夫を踏用したところは一點もない。すべてが私自身の創意である。また私は、作品や製作やの論議においても、從來の修辭學や文章論の、因襲的な觀念や用語は今とき、てんで必要がないので、ほとんど一つも使用せず、纏れもしてゐない。記述にも無用なエラボレーション(延べ廣げ)は出來るだけ排除して、要點のみを摘記したつもりである。

## 鈴木三重吉先生著

菊判六百餘頁布裝函入 東京驛前丸ビル  
寄圓六十錢送料十四錢 振替東京三四番

## 中央公論社